本殿前にそびえるご神木の「千年杉」。

【千年杉】

観音杉は残念ながら台風で折れてしまったものの、境内にはご神木の大杉が5本天を突くように屹立しています。幹回りは大人4人で囲んでも手が届かないほど。これまで樹齢は750年～800年と推定されていましたが、神木殿に祀られた観音杉の年輪を市教育委員や博物館学芸員の立会いの下厳密に調べたところ、推定より200年余り古く、樹齢約1000年であることが判明しました。森厳な空気と自然の生命力に満ち満ちた境内は、県北屈指のパワースポットといわれているようです。

神木殿に祀られた観音杉。

【平成の大修理】

本殿の大屋根は正面が唐破風、上部に千鳥破風、左右側面にも千鳥破風を対照的に構えた他にあまり例のない形状です。かつては大屋根全体が檜皮葺（ひわだぶき）でしたが、トタン屋根で覆って雨露をしのぐ状態だったことから、氏子の皆さまの発願により銅版に葺き替える平成の大修理に着手しました。一枚ごとに寄進者のお名前を記した銅版約3000枚を用いて平成18（2006）年に竣工。年を経るごとに荘厳な輝きが加わっています。

波多野邦彦宮司

郡山山麓鎮座

清神社（すがじんじゃ）

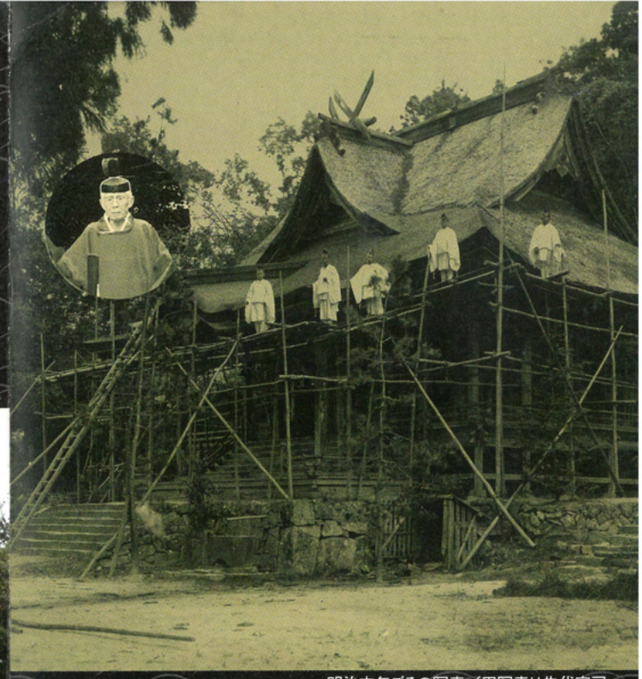
百戦百勝・合格と吉兆のお社

◎清神社／〒731-0501　広島県安芸高田市吉田町吉田477
電話番号:0826-42-0123　FAX番号:0826-42-0123

平成25年（2013年）1月改訂

郡山山麓鎮座

清神社（すがじんじゃ）



明治末年ごろの写真／円写真は先代宮司

【清神社の由来】

戦国大名毛利氏の居城跡で、日本百名城の一つに数えられる郡山城。その麓に位置する清神社は神代からの由緒を持つ古社です。中世には京都祇園社の荘園吉田荘の鎮守、のちに毛利氏の氏神となりました。

主祭神は素戔嗚尊（すさのおのみこと）で、相殿には妻の奇稲田姫（くしなだひめ）、その両親の脚摩乳（あしなづち）と手摩乳（てなづち）など、五男三女神をお祀りしています。かつては行宮清神社、祇園崇道、祇園社とも呼ばれていましたが、明治初期の神仏分離令により現在の名に改められました。清（すが）とは、八岐大蛇を退治した素戔嗚尊が「吾が心、清清し」と発せられたという日本書紀の故事にちなんでいます。日本書紀の第八段一書（二）には、素戔嗚尊が安芸国の可愛之川（江の川）の上流で八岐大蛇を退治したとあり、この吉田の地を指すと考えられています。八岐大蛇を封じて祀った小祠といわれる八面荒神をはじめ、稲田橋、簸の川、大蛇が淵など、近郷に残るゆかりの地名も神代の昔、素戔嗚尊がご鎮座された地と伝えられる所以です。また南北朝時代の正中2（1325）年から江戸時代の元禄7（1694）年までの棟札16枚が保存されており、毛利元就、隆元、輝元など毛利氏一族が大旦那として取り仕切った宮普請の記録は、毛利氏の崇敬厚い社であったことを裏付けています。

平成9（1997）年のNHK大河ドラマ「毛利元就」の放映以来、全国各地から参拝客が絶えず、とりわけ戦国最高の知将・元就公の戦いぶりにあやかりたいと平成24（2012）年サッカーJリーグで優勝した「サンフレッチェ広島」をはじめ、スポーツ選手や受験生が祈願に訪れる神社として知名度が高まっています。

【清神社・本殿】

現在の社殿は元禄7（1694）年建立されたもので、正面に千鳥破風、前に軒唐破風を構え、正面が6本の太い柱で形成された五間社切妻造。この辺りでは珍しいスケールの大きな建物です。

欅の一枚板に雄渾な筆勢で「清神社」と記された社額は、出雲大社宮司である出雲国造家に生まれ、貴族院議員、埼玉・静岡県知事、東京府知事、司法大臣を歴任された千家尊福（せんげたかとみ）氏の揮毫。年の初めの例（ためし）として、おわりなき世のめでたさを…の詞でおなじみの唱歌「一月一日」を作詞された方としても有名です。

本殿正面には松竹梅鶴亀など吉兆を示す彫物が施されているほか、内陣神座下の羽目板には牡丹・鳶などの花鳥図が極彩色で描かれています。元禄7年以前の社殿の材料が用いられており、相当の絵師の作とみられていますが、詳しくは今後の調査を待つことになります。

【椙若社】

毛利元就公が陸奥守のころ発願建立した社で、元就公の育ての母「椙（すぎ）の方」をお祀りしています。芸藩通志の祇園社の項には「元就の母、杉大方をまつる、和知、柚谷霊社」と記されています。椙の方は元就の父・弘元の継室で、4歳で母を、9歳で父を亡くした元就公の養育にあたりました。生涯元就のために尽くし、その人格形成に多大な影響を与えた女性であったようです。

昭和25（1950）年の台風により倒壊し、敷石を残すのみになっていましたが、元就公生誕500年の記念事業として、平成10（1998）年中世の建築様式を忠実に復元した総檜・流造りの社が再建されました。

【神木殿・社務処】

平成11（1999）年9月の台風18号により、「観音杉」と呼ばれていた幹回り約 4.8メートル、高さ45メートルの大杉が根本から1／3のところで折れ、地響きを立てて横臥してしまいました。大杉の北側には本殿や椙若社、東には神楽殿、西に神輿殿と蔵、南には民家がありますが、奇跡的に被害はなく、駆けつけた人々に「神風が吹いた」「身代わり杉よ」と不思議がられました。残った部分も倒木する危険性があるため、同年師走に伐採清祓祭を斉行。多くの皆さんに見守られる中で、石州の木匠の手により、静かに倒伏されました。この観音杉の根本部分を約1メートル掘り下げて、周囲約5.5メートル、厚さ30センチを切り出し、据え付けたのが社務処に隣接する「神木殿」です。当初は本殿横に設置しましたが、背後にみごとな亀甲積みの石垣があることから平成24（2012）年師走に、現在地へ移設しております。

【逆御扉】

本殿正面、杉材の1枚板が用いられている観音開きの御扉は、よく見ると材木の天地を逆に、根元を上にして用いています。これは逆御扉（さかみとびら）と呼ばれるもの。日本造建築では本来「根元が下」が鉄則ですが、日光東照宮の陽明門のように、完璧は乱れのはじまりとして魔除けとして逆柱を用いることがあり、それと同じ意味合いがあります。もっとも、逆御扉を正面に据えているのは非常に珍しいようです。

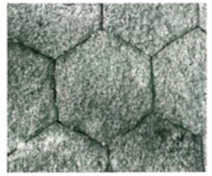
【ご神水】

境内の清冽な湧き水は、元就公も口漱ぎされた霊水です。郡山に降った雨や霧の雫などが、岩の間を滲み通って湧き出ています。古くから「ご龍水」と言い伝えていますが、古文書には「神泉・御流川」と併記されています。透明度抜群で、水博士として知られる広島国際学院大学の佐々木健教授に分析していただいた結果、おいしい水の要件に合致する、まれにみる軟水の名水とのお墨付きをいただきました。

【宝物】

- ◆正中2（1325）年以来の棟札16枚（県重文指定）
- ◆落書き格子（県重文指定）
- ◆刀（毛利元就公寄進）
- ◆高麗焼花瓶一対（毛利輝元公寄進／市重文指定）
- ◆元亀の舞楽面
- ◆感神院の社額（聖護院道増法親王染筆／市重文指定）

材木の天地を逆にした逆御扉（さかみとびら）。



美しい亀甲積みの石垣は名工の技。

清神社の神紋

【祭事】

- ◆歳旦祭／1月1日
  神楽の舞い納めと舞い始め
- ◆サンフレッチェ必勝祈願祭
  ／1月下旬
- ◆市入り祭／5月5日（子どもの日）
  神幸行列と子ども歌舞伎
- ◆祇園祭／7月第2土曜日
  神楽奉納と夜店の賑わい
- ◆七五三参り／11月
- ◆新穀感謝祭／11月23日

元亀の舞楽面

延宝3（1675）年以来、市入り例大祭で演じ続けられている子ども歌舞伎。

サンフレッチェ必勝祈願祭

大正15年ごろ撮影の写真

神代からのご鎮座と伝えられ、
素戔嗚尊の八岐大蛇退治伝説が残る、
毛利氏の崇敬厚き社。